

学生の山村・林業体験活動「林家および林業事業体ステイ」による 山村地域・林業活性化支援事業

事業代表者（農学部・教授・大久保達弘）

構 成 員（栃木県林業振興協会女性部会・事務局担当（栃木県環境森林部）・関谷夕香・今井博代）

1. 事業の目的・意義

栃木県内の森林所有者（林家）および林業事業体への学生の宿泊滞在体験（ステイ）を通じて、山村生活、林業実務体験および人的交流の機会を提供し、将来に向けた森づくりに取り組む人材を育成する。受入側の森林所有者、林業事業体は学生交流を通じて後継者養成のきっかけを得ることができる。

2. 事業内容

(1) 林家ステイおよび林業事業体ステイ

年2回全学学生を対象に「林家および林業事業体ステイ」を募集、日帰り～2泊3日間の滞在実習を実施、日常の山暮らしと林業を体験する。例えば自家の農林作業、道の草刈、動物や家畜の世話、薪割り、庭木の手入れ、家事の補助、地域の共同作業など。またステイ後林家・林業事業体に感想・意見を報告する。



図1. 林家・林業事業体ステイ交流会

実施時期は夏季・春季休業中、前期・後期中の週末、方法は大学がステイ募集・希望学生はエントリーシート提出→学内事前指導・林家交流報告会→部会が受入先選定→ステイ実施→参加学生から報告書提出

（連携相手先の役割）

学生のステイ受入可能な森林所有者・林業事業体の選定・受入事業を事務局がコーディネート（大学側の役割）

林家ステイ・林業事業体ステイ参加学生募集と連携相手先への紹介・学生指導



図2. 林家所有の山林伐採跡地での植林実習

3. 事業の進捗状況

平成28年5月に前年度実施した林家ステイおよび林業事業体ステイ交流会を実施した（林家・事業体5名、学生22名）（図1）。また、同年12月、平成29年2月に植林実習（学生9名）、林家ステイに各1名が参加した（図2）。

4. 事業の成果

参加学生は山の生活のすばらしさや山村が抱える課題に気づき、その未来を考えるきっかけを見つけてもらった。受入林家・林業事業体は若い学生の力、意見を得ることで、気持ちの若返り、後継者問題など地域課題解決の糸口を見つける機会を提供できた。

5. 今後の展望

ステイ参加学生の林家や林業事業体への長期滞

在、最終的には定住・就業への道筋をつなげる。
課題として参加学生を増やす方策の検討。